連協道路ニュース

第392号

発行 横浜環状道路(圏央道)対策連絡協議会 事務局
Tel 090-4825-7174 http://renkyoueditor.web.fc2.com/
Mail: renkyoueditor@mail.goo.ne.jp

(創刊 1988 .12.14)

2022.05.01.

事業者との質問･回答会議開催報告
(3月30日開催分)

前回12月の質問・回答会議を受けての再質問事項の回答を受けた。

①桂台換気所の上り線のファン能力をアップさせ釜利谷開口部からの排ガス量の減少化ができるのではないか？

「換気所能力は2カ所トータルで計画するのが一般的でありその考え方は無い」との回答であった。換気所システムの大変更の結果が釜利開口部の排ガス量増加要因であり、一般的ではなく再度検討するよう強く求めた。

②上郷公田線の神戸橋～西ヶ谷交差点間推定交通量6200台/日の根拠の提示

市道路局回答はこれまでと全く同じで、「新しいOD表から国交省が算出したもので市側では説明できない」。また、国交省は「市の求めに応じ神奈川県とかの主要道路等の大きな枠での算出から出たもので、一つ一つの交差点間の交通量を求めたものでなくこれ以上の説明は出来ない」との訳の分からない回答であった。

この区間の6200台/日は現状から1700台/日程度の増加に留まり上郷公田線の目的である南線へのアクセス道路、環状4号線のバイパス道路として何ら価値のない道路であり、税金の無駄使いであり上郷公田線の2車線区間は計画中止するよう改めて求めた。

③桂トンネルシールドマシン振動問題

2月14日のトンネル掘進再開に伴い、沿線住民からの苦情を受けての対応等について説明を求めた。

◈住民から、前の工事長の説明では**「マシンは動き出したら連続で掘削し止めることは無い、夜間寝られないのであれば宿泊施設を用意する」**とまで言い切ったが、毎日止まっているではないかとの詰問に対し、NEXCO課長は「前の工事長が止まらないこと、宿泊所斡旋の説明をしたとすれば、当時の説明が不足していた」と宿泊所の用意の考えは無いことを回答した。

数年で交替する工事長のその場限りの傲慢な地元説明に対し、その事態が発生したとたん前任者に責任を押し付ける事業者の言い分に呆れ果てた。皆さん、説明の記録が重要です。

✦掘削時間について

掘進再開当初は朝まで掘進をしていたが現在は夜23時頃には止っていることに対し、「夜寝られないとの苦情を頂きそのような場合は23時で止めるようにしている。施工中はご迷惑かけておりますがなんとか気を付けながらやっていきたい」との回答であった。苦情が出たら時間短縮？苦情無かったら朝まで掘削のような対応はおかしい、きちんと住民が納得するような方針を定めて丁寧に説明することを求めた。

(事務局長　長谷川誠二)

栄区長の横環南への要請

行政の年度初めに当たり毎年4月に栄区では区連会と称して各行政体から年度計画が報告されます。4月20日の同会議で、横環南に関してNEXCOから栄区内の事業計画が発表され、それに関して富士田区長は連協からの要請に基づいて「地域全体の要望である脱硝装置の設置を要望する」等の発言があり、事業者からは**「その必要性を検討する」**との回答がありました。なお議事録は後日町会を通して配布されますのでご確認ください。　(会長　比留間哲生)

第２回　騒音・振動被害調査

2 月 14 日に再稼働したシールドマシンは 2 カ月間で 300m 掘進し、4 月 15 日に「あさもや緑道」へ到達しました。それに併せ犬山町から「あさもや緑道」までの湘南桂台沿線の 95 世帯を対象に被害調査アンケートを実施しました。

回答期日の 4 月 17 日までに 37 軒の方から回答を頂きました。今回は事業者が掘進スピードを低速にし、作業時間を短縮することで騒音・振動の発生を抑えた為路上では殆ど感じられませんでした。しかし、アンケートでは 37 軒の 70%、26 軒の方から騒音があったと回答がありました。屋内ではドーンドーン、ガリガリ、ドスンドスンと云うような音と振動が午前 7 時過ぎから夜１１時頃まで断続的に続き、特に 8 軒の方は苦痛・不快・気分が優れない・辛かった等の不調を訴えております。

家屋・外回りへの被害はそれぞれ６件申し出がありましたが、皆さん経年変化と区別できないと考え事業者へ苦情を申し出ていません。しかし、事業者が平成 31 年に行った事前調査の報告書で指摘していない不具合については、遠慮せず事業者へ苦情を申し出て下さい。工事との因果関係を調べるのは事業者の側です。

現在、第３回目として「ゆうもや緑道」までの 92 世帯対象に調査票を配布しています。　**（騒音・振動・低周波音被害調査グループ）**

外環道グループと合同勉強会

4 月 19 日（火）14 時から西ヶ谷ハイツ集会所を借用し、合同勉強会を開催しました。当方はグループメンバー以外に湘南桂台沿線の方が参加されたので 13 名、外環道からは陥没事故原因究明ワーキンググループの方以外に外環道差し止め訴訟と田園調布のリニア差止訴訟の方々も加えて 10 名の方達に参加頂き、当初予定を 1 時間オーバーして 17 時まで、各地域の状況報告と、被害調査の進め方等について活発に話し合いを行いました。

当方からは湘南桂台の第一次分として 95 世帯を対象に 4 月 17 日期限で行った 34 件の回答内容を報告しましたが、外環道の方達から低周波音被害に対する危機感が足りないとの指摘がありました。又、市民研の上田先生からは調査アンケートで回答があった被害状況について早急に対面での聞き取り調査を始めるよう要請がありました。

外環道の皆さんを事前に庄戸のパンダ公園に案内し、会長から釜利谷開口部から湘南桂台方面にかけての横環南の状況を説明し、勉強会終了後はシールドマシンの現在地表示看板、公田掘割部の工事状況を見て貰いながら本郷台駅へ送りました。(大橋)

横環南でも低周波音健康被害多発の恐れ（特別投稿）

外環ルート上の調布市の住宅街では、陥没だけでなく、振動・低周波音が、特に女性に深刻な健康被害を与え、未だに後遺症に苦しむ方も複数みられる。低周波音（聞こえないが体感できる音）を長時間受け続けると船酔いに似た症状などが表れる。「外環振動・低周波音調査会」の調査に連協のご協力を頂き３台の簡易型振動計が設置され、掘進再開したシールド機の振動データを記録し、原因調査に大きく貢献している。

昨年夏の横環南訪問時に何人かが低周波音の症状を訴えられていた。本年４月の訪問時にシールド機直上の屋外でカーン、カーンという音に驚いた。共振する建物内に長時間いると深刻な被害が出ること必至。回転立坑で折り返して来る往復２回の振動で、沿線 1.3km の多数の近隣住民が発症する恐れがある。

住民は学習し、振動計で記録し、事業者に工事中止や抜本的対策を要求してほしい。

「記録せよ、抗議せよ、そして生きのびよ」

（外環ネット　籠谷　清）

対外活動報告

04/09　外環道工事差し止め仮処分の報告会（於：三鷹市民協同センター、事務局長参加）

04/19　外環道とのシールドマシン振動等からの健康被害合同学習会（於：西ヶ谷ハイツ集会所、外環道 8 名、連協 14 名が参加）

04/12，26 栄区政推進課清水係長（会長）